



学長

禿 正宣

地域を支える人材を育てる 短期大学教育を旨として

本学は、仏教精神を背景とした「豊かな人間性」とともに「実践的な専門能力」を身につけて地域で活躍できる人材の育成に、「仁愛兼済」の建学の精神のもとに取り組んでまいりました。特に、生活科学、幼児教育という身近な分野を教育・研究の中心としている本学としては、短期大学の特質を活かした人材育成のあり方をさらに発展させ、将来にわたって地域社会を支える優れた人材を輩出していくことが、重要な役割であると考えています。このたび採択された「研究ブランディング事業」の取り組みを核として、学びの体系化や可視化をすすめ、地域社会から一層の期待をうける短期大学教育を旨としてまいります。

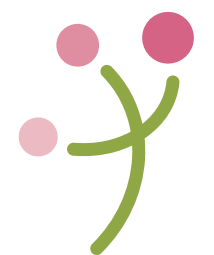


幼児教育学 学科長

松川 恵子

福井県内保育者のみなさまと歩んできた 50年以上に及ぶ歴史を活かして

1966年の保育科開設以来、仁愛女子短期大学は50年以上の間、福井県内の保育者養成・保育者育成に携わってまいりました。2018年3月に公表した「福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書」によれば、福井県内で保育者として働く方の約6割が仁愛女子短期大学の卒業生となります。こうしたデータからも、福井県の保育を担う人材を輩出している養成校としての責任の重さや質の高い教育活動の必要性を感じております。今回の「研究ブランディング事業」においては、特に、高校や保育現場との連携を密にしながら、キャリア・ステージごとの育みたい資質・能力を明らかにできればと考えております。福井県の子どもたちが「しあわせ」に成長できるような環境を整えるためにも、幼児教育学科を研究主体とし本事業に取り組んでまいります。



保育の学びがみえる仁短
2018年度私立大学研究ブランディング事業

LOGO MARK ロゴマークについて

本事業のロゴマークを本学学生が制作しました。

●高校 → ●短期大学(養成校) → ●保育現場を子ども(C...Children)がつなぎ、仁愛女子短期大学(J...Jin-ai)が、その架け橋となるイメージ。また●が実のように色濃く大きく成長していく様も表現しています。

[デザイン] 生活科学学科 生活デザイン専攻 矢城さくら

本事業のキャッチフレーズ：保育の学びがみえる仁短

事業計画

年次計画（概要）

	2018	2019	2020	2021
予備調査・研究に着手	●			
ステークホルダーの現状把握（アンケート等）		●		
キャリア・ルーブリック作成のための基礎研究 (学会発表 / 学会誌投稿)		●	●	
キャリア・ルーブリックの試作 → 完成		●	●	
「中間報告書」の制作、配布			●	
研究成果をまとめた書籍の出版			●	
運用上の課題の検討（効果測定）				●
高校・養成校・保育現場等対象 「公開シンポジウム」開催				●
「最終報告書」の制作、配布				●

達成目標

2020

本事業の
認知度
60%

2021

キャリア
ルーブリック
認知度
80%

学生
「満足」率
80%

キャッチ
フレーズ
認知度
80%

TOPICS

本学は、2018年度(平成30年度)私立大学研究ブランディング事業に、
全国の短期大学のなかから唯一採択されました！

2018年度 選定件数20件
(申請件数157件、うち短期大学申請数21件)

私立大学研究ブランディング事業とは？

私立大学研究ブランディング事業とは、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学・私立短期大学を重点的に支援するものです。

WEB

ブランディング事業紹介 <http://www.jin-ai.ac.jp/branding/>



仁愛女子短期大学
<http://www.jin-ai.ac.jp>

福井県福井市天池町 43-1-1
TEL : 0776-56-1133 (代表) FAX : 0776-56-2922



2018年度私立大学研究ブランディング事業

保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発

～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～

仁愛女子短期大学



移行に伴うギャップを軽減し、 見通しの持てる保育者育成環境を実現します。

研究を通じて、高校・短大・保育現場、それぞれが抱える課題を明らかにしていきます。

さらに、三者間の連携の在り方を模索しながらギャップを軽減し、

今まで実現できていなかったシームレスなつながりを創出していきます。

保育に出会う

研究テーマ

高校生と保育との出会い

- ・高校生の保育に対する意識はどのようなものか？
- ・保育者の職務内容や仕事の魅力はどうか？

高校から短大への接続

- ・高校までの学習を保育の学びへとどのようにつないでいくか？
- ・円滑な接続を実現する入学前教育および初年次教育とは？

保育を学ぶ

研究テーマ

学習成果と評価

- ・短大卒業までに身につけるべき学習成果とはどのようなものか？
- ・学習の状況およびその成果をどのように評価していけばよいか？

短大のカリキュラム

- ・学習成果目標に対応して、どれだけの内容をどのように分類して教科目を編成すべきか？
- ・各教科目が段階的・発展的につながるようにするには、どのような系統性が必要か？

保育に携わる

研究テーマ

短大から保育現場への接続

- ・短大での学習成果と現場で求められる資質・能力とのギャップについて
- ・新任保育者が直面する困難な状況とその支援方策について

保育者としての専門性向上

- ・地域公開講座、免許状更新講習、キャリアアップ研修、現場研修等の位置づけと内容の改善について
- ・新任保育者 → 中堅保育者 → 管理職へというキャリアに応じた研修内容の構築について

保育を守る

研究テーマ

保育の持続可能性

- ・人材確保・人材育成の好循環や保育の質の向上を目指すにはどうしたらよいか？
- ・保育現場が中学生・高校生を受け入れる際に求められる工夫とは？（保育職志望者を一人でも多く増やすために）
- ・保育の魅力を世間一般に広く伝えていくために求められることは何か？
- ・関係者（ステークホルダー）間の相互理解をどのように図っていけばよいか？



「保育の学びがみえる仁短」を目指して

本事業のポイントは、高校・短大・保育現場という三者間の連携・協働によるシームレスな保育者育成環境を構築することにあります。そもそも、高校生人口の減少が進む福井県においては、一人でも多くの生徒が保育職を志望し、さらに保育者になってからも長く現場に携わっていかねば県内の保育が維持できません。したがって、保育の魅力を積極的に伝えていくとともに、保育者へと成長しやすい育成環境を築くことが喫緊の課題といえます。本事業では、高校・短大・保育現場の各段階で身につけるべき資質・能力及びその段階的基準を共通化した「キャリア・ルーブリック」を開発し、それを関係者で共有することにより「学びの可視化」を実現していきます。これにより、各段階における学習目標が明確となり、意欲の継続、向上にもつながります。また成長イメージが可視化されることで、将来展望をもちやすくなることでしょう。以上の取り組みを、仁愛女子短期大学と連携協定を結んでいる福井市および永平寺町の皆さまのご協力のもとに進めることで、地域社会全体で保育者を育てていくという風土の醸成に努めてまいります。



研究ブランディング事業取組責任者
ブランディング推進室長

増田 翼

事業実施体制

学長の下に5つの部会で構成される「研究ブランディング事業推進プロジェクトチーム」を編成するとともに、総合学務センターに「ブランディング推進室」を設置し、仁愛女子短期大学一丸となって本事業に取り組んでまいります。

